

令和 6 年度 第 2 回 長野市歴史的風致維持向上協議会会議記録（概要）

日 時：令和 7 年 2 月 10 日（月）

午前 10 時から午後 0 時 5 分まで

場 所：長野市役所第二庁舎 10 階 会議室 203

●出席委員 11 名

高見澤委員、宮下委員、久米委員、小林委員、土本委員、樋口委員、清水委員、長尾委員、水上委員、小林委員、北澤委員

（欠席委員 4 名 若林委員、古畑委員、徳武委員、塚本委員）

1 開 会

- ・会議は公開で開催し、傍聴者は無し
- ・委員総数 15 人中、委員 11 人の出席により定足数を満たしたため会議は成立

2 挨拶

高見澤会長あいさつ

3 協 議

- (1) 令和 6 年度 長野市歴史的風致維持向上計画（第 2 期）の進行管理・評価について

- ・事務局及び事業担当課職員から、資料 1－1、1－2 により説明

意見：(1)－9、「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業について、合併 20 周年記念事業の一環として、地元中学生による観光客への資料館の展示ガイド体験を実施したことにより、入館者数が前年度、令和 5 年度の 2,361 人から 350 人の増につながっている。この取り組みを参考に、他の事業でも何かできることがあるのではないか。

回答：毎年 10 月には、大室古墳群まつり実行委員会の皆さんと協力して大室古（市）墳群まつりを開催している。このような事業を 1 つ 1 つ積み重ねながら、文化財の活用を進めていきたい。

質問：(2)－5、地域文化資源保存活用調査支援事業（戸隠竹細工）について、（委員）戸隠竹細工は現在、県の指定伝統的工芸にはなっているが、国の伝統的工芸品の指定を目指し、裏付けとなる 100 年前の竹細工製品を探しているのか。

回答：戸隠竹細工については、国の指定を目指しており、指定の条件として技術が 100 年以上続いていることを証明しなければならない。伝統技術の継承に関し、文章や記録として残りにくいため、竹細工技法が 100 年前から続いているという証拠などを積み重ね、国の指定を受けられるよう、

調査を進めている。

意見：（２）－３、弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業について、数年前、建築（委員）士会ながの支部では、大工さんたちに集まってもらい弥栄神社の御祭礼屋台の解体や組み立て実習会をトイゴ広場で行った。人手や担い手が市全域で不足する中で、お祭りを背負っていく連携をしないとお祭りを保存していくことが難しいのではないかと考える。そこで、ソフト事業に関し、今まで行ってきたことから、もう１歩広げて何か工夫できるのではないか。

回答：この提案については、実行委員会などと協議し、検討していく。
（市）

意見：（２）－１、無形文化財支援事業について、以前、松代の大門踊りの伝承（委員）者が少なくなり、そのオリジナルの踊りが踊れなくなったときに、記録映像を見ながら復活させた取り組みがあった。伝承者を育てることも一義的に大事であるが、事前策として映像記録を残しておくことが重要ではないか。

回答：来年度、一般財団法人地域創造から助成を受け、篠ノ井の三十三燈籠の（市）映像記録を作成する予定である。祭礼や伝統芸能など、措置を講ずべき文化財については、記録映像を計画的に撮影していきたい。

意見：（３）－３、旧松代駅跡地周辺環境整備事業について、来年度の解体が決（委員）まりつつあるという説明があった。現在、駐車場のバス停留所は松代中学校の生徒が待合として使用している。この場所は松代城下町の玄関口に位置し、国の史跡である松代城跡に合ったたたずまいが必要であることから、旧松代駅舎解体後、修景的な対策を含めた代替の待合所が必要ではないか。

回答：来年度、バス待合所について仮に駅舎解体の予算がついた場合、既存施（市）設で雨よけができる仮整備を検討している。今後の道路整備を含む周辺整備の際は、武家屋敷など周辺の町並み景観に十分に配慮する。

意見：（３）－３、旧松代駅跡地周辺環境整備事業に関連し、地元及び市内関係（委員）課と打ち合わせを行ってと書いてあるが、松代の観光や今後の活性化のための全体図をどこで作成しているのか。全体的に何かテコ入れしていないと、地域が活性化する状態にならないと思う。どのような目標に対し、到達点などはどのように計画しているのか。

回答：松代地区は、城下町としての歴史的資源などの強みが多く存在し、さら（市）に文化財や観光に関するイベントも実施してきたが、十分な状況ではない。どの課に集中させて取り組むものではなく、この歴史的風致維持向上計画を通じて、関係課との連携を強化しながら、インバウンドを含め、

さまざまな角度から研究や情報発信を行い、現在実施している各事業をより充実させ、効果が上がるように取り組み、地域の活性化を図っていききたい。

意見：4、歴史的風致を生かした観光振興、地域活性化に関する事業について、
(委員) 松代が目指すべき目標を持つべきだと思う。これまで公的資金を投入し、道路整備や古墳周りの自転車道、遊歩道などを整備してきたが、何かプチン、プチンとそれぞれの事業が分断され、根本的に目指すところに到達できていないと思う。松代が持っている多くの資源を生かすために、どういうところに行くというものを新たに付け加えた方がよい。

回答：松代地区については、歴史ある建物や祭礼、NPO法人による活動など
(市) により松代のまちづくりを進めてきた。市としても、いろいろな事業について地元と相談しながら進めているが、様々な意見もあり、どのような形がよいのかは、丁寧に意見交換しながら進めてきた。これまで住民自治協議会などと意見交換をしながら進めてきたが、今後も様々な課題に対し、住民自治協議会や観光協会などと丁寧に意見交換しながら、松代のまちづくりに取り組んでいきたい。

質問：松代地区のグランドデザインを描き、有効的な取り組みが必要である。

(委員) (3) - 3、旧松代駅跡地周辺環境整備事業について、旧松代駅舎解体後は、道路を整備するのか。

回答：解体後は、旧松代駅舎から北側の観光駐車場に向かうアクセス道路の整備
(市) について、地元から強い要望が示されている。

意見：伝統環境保存事業関係について、松代地区の城下町の建造物や街並み、
(委員) 武家屋敷に加えて、水路網が注目されつつある。武家屋敷に引き込む水で庭に泉水を作り、武家屋敷の池どうしが直接水路で繋がっているものが泉水路である。2024年には、松代の泉水・泉水路を守る会が発足し、会員が120名以上となり非常に盛り上がってきている。建造物や町並みに加えて泉水・泉水路を全国的にアピールしたいという動きが高まっており、今後の松代のまちづくりのポイントになると思う。

意見：文化財保存活用地域計画認定記念事業シンポジウムの門前まち巡見で
(委員) は、市の学芸員の皆さんが案内役となり、若い方の参加も見られた。若い方に伝えることが大事であり、公民館・交流センターでの歴史講座事業など、今まで長期にわたって継続してきたやり方を考える時期に来ているのではないかと思う。若い方に参加してもらえるような講座や取り組み方に変えていく必要があるのではないか。

回答：公民館交流センターで行っている講座は、平日の日中に行うものが主で
(市) あり、参加いただけるのは60代以上の方が中心になっている。各公民館

や交流センターは、若い方に参加してもらえるよう、学生の長期休暇の時期や、土曜日や日曜日に開催するなど工夫をしてくれており、少しでも若い方の参加が増えることを期待している。

質問：（４）－２、空き家バンク事業について、登録件数が６件と非常に少ない（委員）のではないかと。これは、ホームページで買う人と売る人の間の情報をつなげるだけの仕組みのものなのか。

回答：この空き家バンク制度は、買いたい人を売りたい人、または貸したい人（市）と借りたい人とつなげるものである。交渉や契約は、当事者間で行うことを前提としている。ここに記載したものは、重点区域内の数字であり、登録物件の成約数は１件である。なお、１月末時点の市全体の登録物件が約９０件、成約が７０件程度であり、成約率は約７割となる。

意見：（３）－１、戸隠地域道路美装化・電柱電線類移設等整備事業について、（委員）仁王門前の歩行者の数が非常に増えていると報告があった。道路美装化や電線の地中化等の整備をしたにもかかわらず、車が多く通るようであれば全然意味がないので、歩行者がゆっくり歩いて観光ができる環境を作っていただきたい。特に善光寺御開帳やイベントがあるときは、警察や他の機関と検討してもらい、善光寺周辺を車両通行止め等にするすることで、整備した成果が目に見えて表れるのではないかと。

回答：善光寺周辺の道路美装化や無電柱化事業で整備した箇所は、現状では車（市）が通れる状況になっているが、歩行者がゆっくり歩ける環境を作ることが望ましい。一方で、荷さばきなど、商売されている方が最低限通行する必要があるため、関係機関や地元の皆様とも協議しながら、慎重に検討していく。

質問：（５）－１、松代町文化財保存活用推進事業について、松代真田宝物館は（委員）将来を見据えた具体的な計画が動いているのか。

回答：実際に真田宝物館を建て替える場合、真田宝物館だけではなく所管する（市）１２施設があるため、まず現状を分析しながら検討する必要がある。また、真田宝物館建て替え費用がどのくらいになるのか、概算費用の積算を行っている。松代地区全体のグランドデザインという話があったが、かなり大規模な事業となるため民間活力の導入を考え、民間企業へのヒアリング等を始めている。行政だけではなく、地域全体でどのように盛り上げていくのか、意見調整の段階にあり、方針が決まり次第、報告させていただく。

意見：各地域で高齢化などが進み担い手が不足する中、長い歴史を紡ぎ背負わ（委員）れた方たちの思いを引き継いでいくため、長野市で人をつないでいくようなフォローアップができないか。中学生とか高校生、信州大学、県

立大学、清泉女学院大学の学生の皆さんを絡ませるようなコラボ事業を年に1回でも2回でも実施することで、若い人たちの心を打つことができるのではないかと感じており、何かそういう事業に取り組めないか。

回答：学生が連携することによって、地元や実行委員会の皆さんの意識が変わ
(市) ることもある。善光寺の屋台巡行では県立大学の学生さんが、また鬼無里でも大学生の皆さんが屋台を引くなど、各地域で学生が参加する取り組みが進んでいる。しかし、担い手が高齢化し、継承が難しい状況にあるため、ながの観光コンベンションビューローと連携し、イベント情報の発信を強化し、関心を持っていただける方が増えるよう、地域の皆さんの意見を聞きながら取り組んでいる。

意見：イベントに若い方を動員しただけでは、継承につながらないと思う。防
(委員) 災ワークショップに若い方が参加した取り組みのように、参加者が自分ごととして考えるような、若い方にも関心を持ってもらう切り口で若い方の参加を募ったらよいのではないか。

回答：今回の防災ワークショップに若い方の参加は多いが、全体の参加者数は
(市) 少なかったという課題がある。次の世代を担う方々に、まちづくりに参加していただく意識を常に持ちながら活動を進めていきたい。

(2) 令和6年度 長野市歴史的風致維持向上計画（第2期）の変更について
・事務局及び事業担当課職員から、資料2-1、2-2により説明

質問：新規事業の真田邸庭園ライトアップ事業は、具体的な事業概要が決まっ
(委員) ているのか。また、観光庁の補助金を活用しているのか。

回答：開催期間や真田邸をライトアップすることは決定しているが、会場での
(市) 演奏会の内容や、それに付随するイベントなどは未定である。令和6年度は、ながの観光コンベンションビューローの予算で実施しており、観光庁などの補助金等は使用していない。

意見：長野市文化財保存活用地域計画の基本方針の継承の部分について、文化
(委員) 財の担い手育成の前に、調達や担い手になってくれる人を探すことをしなければ継承につながらないのではないか。例えば、空き家バンク事業や公民館・交流センターでの歴史講座事業、松代歴史文化の発信誘致事業、川田宿PR活用事業など、人を巻き込んでPRしたり、ガイドしたり、歴史の話をしたりして外に発信しながら、担い手になってもらえる人の発掘につなげてくことをしないと、継承される仕組みがスタートしないのではないか。

回答：担い手の発掘は非常に重要であると認識しており、担い手の発掘を含め
(市) 「文化財の担い手育成」としている。今回開催した長野市文化財保存活用地域計画の認定を記念したシンポジウムは、若い人たちが参画してい

る企業と連携しながら企画を行った。このように、文化財の担い手や人材を育ててもらえるような人々の発掘につなげられるよう取り組んでいきたい。

意見：地域の会社や企業との連携やコラボレーションは、今後絶対取り組むべきである。学生だけでなく、その地域で事業を展開している企業の若い人との連携は非常によいと思う。

○諮問「長野市歴史的風致維持向上計画（第２期）の令和６年度進行管理・評価及び計画の変更について」に対して、本会議における意見概要を答申とすることを承認した。

4 閉 会

文化財課長挨拶